



カップルを組む斎木智子さんと。

セウチダンススクール所属  
社交ダンスのプロダンサー

## 瀬内英幸さん

昭和61年11月7日生まれ。セウチダンススクール所属のプロダンサー。保見中学校、名古屋高校卒業。5歳で社交ダンス、クラシックバレエを始め、10歳で全日本ジュニア(小学生)部門スタンダードの部優勝。高校入学後は中部アマチュアラテン選手権6連覇。全日本アマチュアラテンの部でも優勝やファイナル入りした。平成21年プロに転向。東京都在住。

## Key Person 07

貝津町自治区

目標は  
世界チャンピオン

## 全日本10ダンス 選手権大会で優勝

**平** 成29年11月に東京で開催された「プロフェッショナル統一全日本10ダンス選手権大会」で見事に優勝を果たした瀬内英幸さん。今、社交ダンス界で注目されている人だ。

瀬内さんは実家のセウチダンススクール(貝津町)で5歳の時に社交ダンスを始め、10歳の時には小學生部門で全国優勝。以来、アマチュア、プロと競技の道を歩んできた。平成27年には米国フロリダの

元世界チャンピオンに師事して1年間のダーナス留学も経験している。帰国後は活動拠点を東京に移し、新たにカップルを組んだ斎木智子さんとともに活動。昼間はレッスン講師をこなし、その前後に2時間ずつ自分たちの練習を続ける忙しい毎日だ。豊田にも出張レッスンで毎月帰っている。

昨年優勝した全日本10ダンス選手権大会は、国内の社交ダンス3団体が共催している大きな統一大会の一つだ。社交ダンスの競技では「スタンダード部門」と「ラテン部門」のどちらかを専門にしているカップルが多いが、この「10ダンス」はスタンダードとラテンの計10種目で総合力を競う。コンスタントな技術力が求められるだけでなく、10種目すべてを踊りきる体力も必要だ。瀬内・斎木カップルの優勝はその内容も素晴らしい、大会初の10種目すべて1位。完全優勝だった。

今回注目を浴びたのは10ダンスの成績だが、もちろん本来の専門であるラテン部門の実力も全国トップクラス。今後の目標はラテン部門での全日本優勝と、10ダンス部門での世界チャンピオンだ。

## Key Person 06

平戸橋自治区

地元の豊田を盛り上げたい!



豊田のご当地アイドル Star☆T  
初代リーダー

さとその ゆき  
**里園侑希さん**

昭和59年10月9日生まれ。猿投台中学校、県立豊田高校を卒業後、東京で芸能活動を9年間続けた。豊田のご当地アイドル「Star☆T」の第1回オーディションを受け、豊田に戻って初代リーダーに就任。現在は安全啓発音楽ユニット「ViViT」のリーダー兼プロデューサー。愛称ゆきー。平戸橋町在住。

## ラグビーW杯開催都市 特別サポートに任命

### 豊

田のご当地アイドル「Star☆T」の初代リーダーを務めた里園侑希さん。

スラリと魅力的な身長は177センチ。「手をあげればどこでも目印」がキャッチフレーズだ。

高校卒業後、東京で芸能活動を9年間続け、大物アーティストのバックダンサーや舞台の演劇に携わりながら各種オーディションを受けていた。豊田に帰ってきたのは東日本大震災がきっかけ。「家族や故郷の大切さをあらためて感じ、地元を盛り上げたい想いが強くなつた」という。Star☆Tのリーダーとして活動したのは約1年半。各地域で多くの人に出会い、地元の人たちの温かさをありがたく感じたそうだ。

退団後も地域に貢献できる活動を続けたい気持ちが強く、現在は安全啓発音楽ユニット「ViViT」のリーダー兼プロデューサー。豊田市の交通事故を減らそうと活動している。エフエムとよたラジオラブリーの生放送番組「あいらぶ」にも毎週金曜日に出演中だ。

平成29年11月には2019年ラグビーワールドカップの開催都市特別サポート(愛知県豊田)に任命された。これは大会の認知度向上と盛り上げのために、ワールドカップ組織委員会の承認のもと各開催都市が設置するものだ。任命後はラグビーをもっと知ろう



エフエムとよたの生放送番組、「あいらぶ」にも出演中だ。



安全啓発音楽ユニット「ViViT」では飲酒運転根絶の啓発も行っている。

と試合会場に通い、今では本物のラグビーファンになつた。「豊田の代表として2019年にかけてみんなを盛り上げていきたい」と意気込んでいる。

Star☆T時代に培った地元の知識を生かし、世界各国から豊田へ訪れてくる人たちのおもてなしや、豊田のPRにも力を入れていくそうだ。猿投地区豊田市合併50周年記念式典で司会の大役も務めた。





うたれん ボーカル  
いはら いさむ  
**井原 力さん**

昭和59年3月29日生まれ。保見中学校、安城学園高校卒。愛知県立大中退。平成24年うたれん結成。26年に3rdシングル「聖なる夜はただ君と」が初の全国流通版に。28年に豊田市の「WE LOVE とよたサポーターズ」に任命。29年には「みんなで楽しい豊田を作ろう!」をコンセプトに、ツイキャス配信番組「We Live!」をスタート。

地元での仕事が多くなつて来たことから、29年に活動拠点を地元に移し、豊田から東京や京都へ行くようになつた。

りきさんは「多くの人に豊田を知つてもらいたいし、住んでいる人にもすてきな場所だと再認識してもらいたい。音楽でつながりを広げて行きたいですね」と話してくれた。



「WE LOVE とよた フェスタ」では  
ライブとツイキャス配信で会場を盛り上げた。

## Key Person 11

公團保見ヶ丘自治区

多くの人に  
豊田を知って  
もらいたい

豊田市内8観光協会合同PRソングも

**東**京、愛知、京都を中心に活躍するアコースティック・ユニット「うたれん」の、ボーカル「りき」と井原力さん。地元豊田のイベントでも素晴らしい歌声で会場を盛り上げている。

上京し「うたれん」を結成したのは平成24年。相方の「じり」と山下朋洋さんは安城学園高校、愛知県立学泉大学時代の同級生だ。最初の1年間は毎日のように池袋で路上ライブを繰り返し

2年いはせん。シンクルを出し前人がいたてみたかたが  
47都道府県路上ライブにチャレンジ。車で寝泊まりしながら3か  
月かけて全国を回った。観客の引きつけ方を真剣に考え、ステージ  
スキルも上がった時期だ。

## Key Person 10

平戸橋自治區

## 豊田を楽しくするつなぎ役



**豊**田をわくわくするまちにしようと、トレーデマークのオレンジ色のつなぎ姿でいつも飛び回っている西村新さん。市民と市民のつなぎ役として、また行政と市民のつなぎ役にもなって、「WE LOVE とよた」の取り組みを広めてきた立役者だ。

「株式会社ニイケヤクリエイト」だ。『デザイン』の力で地域貢献もしていこうと、季刊のフリーペーパー『耕L-i-fE』の発行を始め、実際に足のついた農山村の暮らしを発信、応援してきた。広告主にも恵まれてブレない誌面づくりを続けている。取材を通して多くの人と関わるなかで、「地域で顔の見える関係性を築きたい」という想いがさらに強くなってきたそうだ。



フリーペーパー「耕Life」では、地域に根ざして活動する人々、食や農、暮らしや環境などを取り上げている。



来場者約6,000人、参加団体は132団体と多くの人々を巻き込んで開催された「WE LOVE とよたフェスタ」。

風呂敷を大きく広げて  
多くの人を巻き込む魅力

タ」の開催にもつながった。風呂敷を大きく広げ、多くの人を巻き込んで実行していくのが西村さんの魅力だ。



**新進の陶芸作家  
やまぎし だいすけ  
山岸大祐さん**

昭和59年1月27日生まれ。青木小、猿投台中、豊田北高校、愛知教育大学、同大学院卒業。国際陶磁器展美濃では第9回(平成23年)銅賞、第10回(平成26年)坂崎重雄セラミックス賞。第10回バラミタ陶芸大賞展(平成27年)で「時代を代表する陶芸家」6名に選出。アルバンドレイ(スペイン)第10回国際陶磁器ビエンナーレ(平成29年)特別賞。現在、多治見市文化工房ギャラリーヴォイススタッフ。



「Receptacle of Perception」2017年



工房に置かれた大型の電気窯。

## Key Person 13 青木台自治区

### 陶芸史に名を残す 作家になりたい

**斬**  
新で独創的な作品を国内外の作品展に出品し、新進陶芸家として評価の高い山岸大祐さん。数々の受賞歴や後進の指導に関わっていることから平成27年度の豊田文化奨励賞を受賞した。

山岸さんが陶芸に興味を持ったのは中学生の時。高校は普通科を選んだが、陶芸をやりたい気持ちが強く愛知教育大学へ進んだ。初めて公募展に出品したのは大学3年生の時だ。大学院

2年生の時には初個展を東京で開き、作家の道を歩み始めた。卒業後は生活のために陶器デザイナーの道を選んだが、人のためにデザインする仕事は自分に向いていないと気付き、中途半端はやめようと1年で退社した。縁あって展覧会を開いたことのある現在の職場に就職し、事務や企画の仕事をしながら、休日夜の時間に作品をつくっている。工房は猿投台中学校に隣接する自宅の一階にあり、大型作品を焼くための特注の電気窯が置かれている。依頼があればここで陶芸教室も開いている。

山岸さんは今後について「大きなことを言えば、陶芸史に名を残すよう作家になりたい。そういう作家を本で見てこの道に進んだので、自分もそういう存在になりたいと思っています」と話してくれた。

創りたい形が浮かんできて、それが創つていてうちにどんどん変化していくという。

山岸さんの作品は実用的な陶器ではなく、自己表現のアート作品。繊細なオブジェだ。强度ギリギリの線を攻めていると自分の

## Key Person 12 中金町自治区

### 消防団の活動をロックでPR



THE消防ロッカーズ

リーダー

まつい しげる  
**松井茂さん**

昭和48年5月16日生まれ。石野中学校から県立豊田西高校、名古屋学院大学へ。メジャーデビューを目指し30歳代前半まで名古屋で音楽バンド活動をしていた。子どもが生まれたのを機に中金町の実家へ戻り、土蔵を改装してレコーディングスタジオを経営している。

地域のために活動している消防団のことを分かりやすくPRしていくと始めた活動だ。松井さん自身、入団するまで消防団が何をしているのか知らないかったそうなので、団員募集のためにもPRの必要性を感じたのだろう。

メンバーは松井さん、藤本義信さん、天野厚志さん、鈴木浩さん、古澤義満さんの5名。20数名の地元消防団(OBも含む)の中でも5種類のパートがそろったのは奇跡的だった。結成当初はみな久しぶりの楽器なのでたどたどしい演奏だったそうだが、練習を重ねるうちに様になってきた。

演奏するのはビートルズやプレスリー等の誰もが知っている曲ばかり。おもしろいのは歌詞をすべて消防団の活動内容に変えて歌っているところだ。メンバー以外の団員も交えて談笑しながらアイデアを出し合い、松

井市消防団第4方面隊第18分団第4部(中金消防団)の団員でつくる音楽バンド「THE消防ロッカーズ」でリーダーを務めている松井茂さん。30歳代前半までメ

ジャーデビューを目指して名古屋で音楽活動を続け、現在は中金町にある自宅の土蔵を改装してレコーディングスタジオを経営している。消防団に入ったのは36歳のときだ。

消防ロッカーズを結成したのは4年前。

### 誰もが知る有名曲を 消防団らしい歌詞で

井さんが歌詞にまとめている。4年間で11曲まで増えた。

観客の前で演奏したのはまだ地元のイベントだけだが、とても評判が良く「消防団がどんな活動をしているのかよく分かったよ」と声を掛けてもらえるそうだ。

松井さんは「これからは大きな舞台でも演奏していきたい。できれば消防団員が集まる場でも演奏してみたいですね」と楽しそうに話してくれた。



消防団の服装にサングラスが演奏時のトレードマークだ。



# 石野地域会議委員 まの あかね **真野朱音さん**

平成8年8月9日生まれ。石野中学校、県立岡崎高校を卒業して、現在は名古屋大学法学部4年生。140人規模の合唱サークルで指揮者として活躍中。昨年は全国コンクールで2位に輝いた。平成28年度から石野地域会議委員。富田町在住。

8年8月9日生まれ。石野中学校、県立岡  
校を卒業して、現在は名古屋大学法学院  
。140人規模の合唱サークルで指揮者と  
躍躍。昨年は全国コンクールで2位に輝  
平成28年度から石野地域会議委員。  
II在住。

平成8年8月9日生まれ。石野中学校、県立岡崎高校を卒業して、現在は名古屋大学法学院4年生。140人規模の合唱サークルで指揮者として活躍中。昨年は全国コンクールで2位に輝いた。平成28年度から石野地域会議委員。富田町在住。

員や企業を目指したいそ  
うだ。



石野地域会議に出席する真野さん。

## Key Person 15

富田町自治区

# 地域を元気にする 仕事に就きたい

活動を通して自分の考え方も変わった

**大**学生ながら石野地域会議委員を2年間（平成28・29年度）務めてきた真野朱音さん。地元について様々なことを学べる貴重な経験だったそうだ。

のは小学生の時。ホタルを呼び戻すために川をきれいにする活動や、動物がすみやすくするために山を整備する活動などを通じ、それによつて目に見えて変わつていくのが楽しかつたという。その後

も少子高齢化や耕作放棄地の増加などの地域課題に関心を持ち、将来は地域おこしに携われる公務員になりたいと考えるようになつた。そんな大学1年生の秋、自宅に届いた地域会議のパンフレットで公募委員の募集を知り、迷わず手をあげたそうだ。

若者ならではの感性を役立てたいと思って始めたものの、実際に活動し始めると、自分が地域のことをあまり知らないのだと気付か

## Key Person 14

## 舞木町自治区

# 猿投の桃と梨は確かに美味しい!



# 果樹農家 もり まさゆき **森誠之さん**

昭和56年1月20日生まれ。加納小学校、猿投中学校卒。県立猿投農林高校から東京農業大学短期大学部へ進学。卒業後、20歳で実家の果樹農家を継ぎ、両親と夫婦の4人で桃と梨の栽培を続けている。JAあいち豊田桃部会で副部会長も務めた。舞木町在住。

大学を卒業し、跡継ぎとして果樹農家の仕事を始めたのは20歳の時だ。子どもの頃から虫の様子をみながら管理する仕事は簡単でなく、最初は何をしたらどうなるのか、さっぱり分からなかつたそうだ。父親やJAあいち豊田桃部会の先輩からも学び、「ようやく何となく分かつてきたところ」だという。最近では剪定方法や肥料を変える工夫も試みている。

果樹農家は一年中忙しい。葉の落ちた冬の間は枝の剪定に追われ、3月末から余分なつぼみを間引く摘蕾(てきらい)が始まる。その後も摘花、摘果と続き、桃の場合は最終的に数%しか残さない。収穫期は6月末から11月いっぱいまで続き、休みをとれるのは10月頃から少しの間だけ。それだけ頑張っても天候不順には勝てないので、農業は厳しい。

「品質の良い作物を作ろうとすると、本当に手間がかかるんです」と農作業の大変さを語る森さん。それだけに、猿投で桃と梨を育つていていることへのプライドも大きい。

A medium shot of a person from the waist up, standing in a vineyard. They are wearing a black beanie and a light-colored, possibly tan or beige, jacket over a dark shirt. They are looking down at a small object they are holding in their hands. The background consists of bare grapevines and some low-lying vegetation.

葉の落ちる冬期は枝の剪定で忙しい毎日だ。

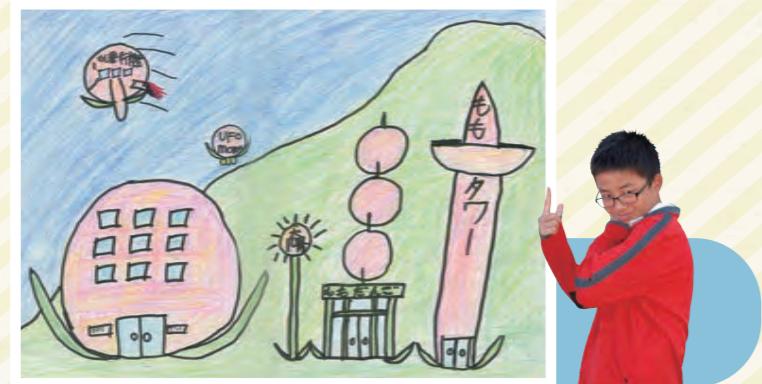


猿投の春を彩る鮮やかな桃の花。

品質の良い黒物を作っていると実感

**猿** 投特産の「桃」と「梨」を家族4人で栽培している果樹農家の森誠之さん。桃・梨あわせて310アールの広い果樹園を管理するのに忙しい毎日を過ごしている。

「猿投の桃や梨は確かに美味しいと思  
いますよ。いろいろと食べ比べてみて、他  
の産地に負けないものを作っていると実  
感できます。猿投は土壤が果樹の栽培に  
適しているそうですし、果樹農家もみんな  
納得できるものを作ろうと頑張ってい  
ますからね」と話してくれた。



### ↑ ももの猿投山

猿投のおいしいモモを想像しながら、モモのおかげで猿投がもっと広く知つてもらえたらしいなと思って描きました。たとえば、モモを使った料理や、「モモだんご」を食べさせてくれるモモのホテルができたらおもしろいと思います。

上鷹見小学校 5年 鈴木智久さん



### ↓ 他の国の人とも

2019年のラグビーワールドカップでいろいろな国の人来た時に、猿投はいいなと思ってもらえるような絵を描きました。猿投には温泉があり、モモが有名なので、温泉にモモを浮かべてみました。猿投を立体的に丸く描き、面白さを表現しました。

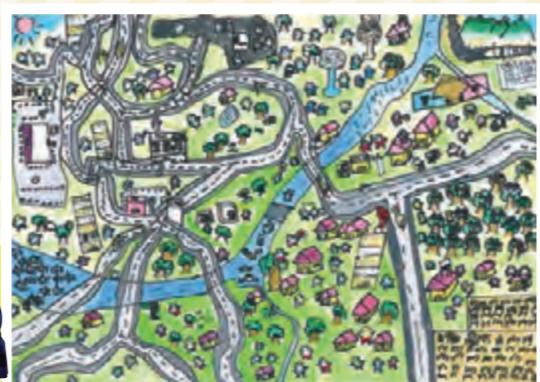
東保見小学校 5年  
山下希花さん



### ↓ 人々が栄えている町

猿投のまちがどんどん都会になり、みんながうれしくなることを想像しながら描きました。それでも、山や川が残っていてほしいと思い、自然がいっぱいなまちにしました。

東保見小学校 5年  
稻垣彰さん



### ← 猿投

お年寄りでも気軽に買い物のできるようなお店があると助かるだろうなと思い、スーパーマーケットを描いてみました。お店ができるても豊かな自然は残したいので、モモ畠や猿投山はしっかり描きました。猿投の未来を考えながら描いているうちに、楽しくなってきました。

加納小学校 5年 谷こころさん



### ↓ 猿投山の朝

山や山登りの好きな人が、いつでも誰でも猿投山へ行けるようにしたいと思って描きました。山の上では、朝は日の出が見え、夜は猿投のまちの夜景が見えるからです。いつまでも猿投山が好きでいられるようにしたいと考えました。

青木小学校 6年 新川航太さん



こどもたちが考える

# 未来のさなげ

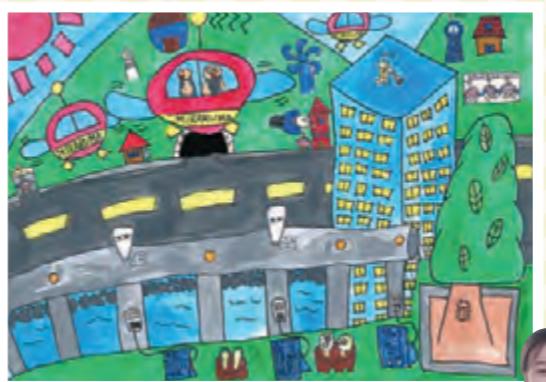
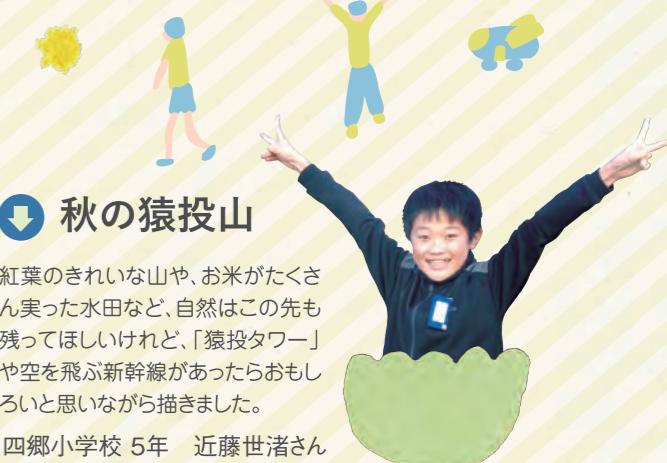
未来のまちはどうなっているのかな？人々の暮らしはどう変わるのだろう？  
「夢」「創造」「思い」などを自由に考えて、こどもたちが未来のさなげを表現しました。(平成29年度の学年)



### ← あつたらしいな こんな未来

猿投は自然や思いやり、特に愛がたくさんあるまちだと思いながら描きました。絵の中の風船が飛んでいるところは、たくさんの愛を表しています。

東保見小学校 5年  
ラルゴディビットさん



### ↑ 自然あふれる未来のさなげ

便利なものがいっぱいある中にも、自然が多く残っている明るい未来になるといいなと考えて描きました。人と同じくらいきれいに掃除ができるお掃除ロボットや、人が装着すると飛ぶことのできる羽ができる過ごしやすくなっていることを表しました。

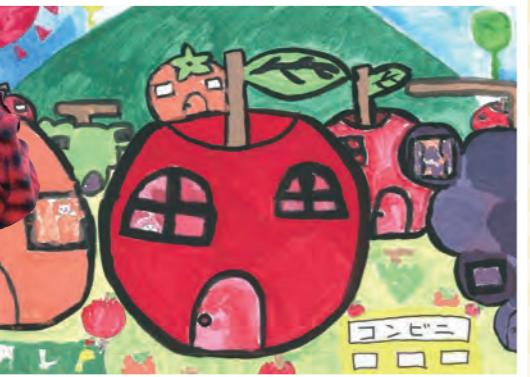
大畑小学校 5年 鈴木摩耶さん



### ↑ きれいな石野

未来のさなげは、高い建物が立ち並ぶまちになつてほしいと思って描きました。また、車が空を飛んでいるといいなと思います。





### ↑ フルーツのまち

リンゴ、ブドウやミカンなど、こんなフルーツいっぱいのまちがあったら楽しそうだなと思いながら描きました。お菓子屋さんでは、フルーツを使ったものを作っています。

青木小学校 6年 大窪愛美さん



### ↑ さなげおんせん

大好きな猿投温泉がこれからもずっと残っていてほしいと思って描きました。猿投をイメージして、スイカとモモと鳥居を描きました。

四郷小学校 5年 谷岡旺青さん



### ↓ 日本一のさなげ

車の渋滞や電車の混雑で困らないように、未来の便利な乗り物で快適に生活できるようになるといいなと思って描きました。

伊保小学校 6年 遠山芯さん



### ↑ 未来のぼくらの駅

四郷駅が今よりも便利で発展した駅になって、リニアモーターカーが走るようになってほしいと思って描きました。

四郷小学校 5年 中根和希さん



### ↓ ぼくが大人になったときのさなげ

サッカーが大好きなので、大きな競技場が猿投にできて、日本代表の試合が見られるようになるといいなと思って描きました。競技場の名前はもちろん、「猿投スタジアム」です!

四郷小学校 5年 堀郁人さん



ムササビと車と一緒に空を飛んでいるところは、動物と人が助け合い、命を大切にしていることをイメージして描きました。大きい木は他の木より大きく育ち、まちが豊かになっていることを表しています。

西広瀬小学校 6年  
三宅洸太さん



### ↓ 動物と人間の共存する世界

ムササビと車と一緒に空を飛んでいるところは、動物と人が助け合い、命を大切にしていることをイメージして描きました。大きい木は他の木より大きく育ち、まちが豊かになっていることを表しています。

西広瀬小学校 6年  
三宅洸太さん



### ← 桃の木がのこる 未来のさなげ

未来にも自然をたくさん残してほしいという思いで描きました。空に浮きゆっくりと安全に運転できる進化した車ができる、便利になっています。

東保見小学校 5年  
菅原寧々さん

### ↓ 私の知らない 未来のさなげ

ビルが多くにぎやかで、友達と楽しく乗れる未来の乗り物があるといいなと思って描きました。夜の空にまちが浮いていて、いつでも空が見える様子を描きました。

東保見小学校 5年  
後藤詩さん



### ↓ ビルばかりでなく、 自然ゆたかなさなげ

私は自然が好きなので、虫たちやアジサイ、木から生えていたる小さな芽など、生き物が生きている様子を描きました。

ビルやタワーがたくさんあって、とても便利な物がありつつも、昆虫や動物が住みやすい自然を想像しました。

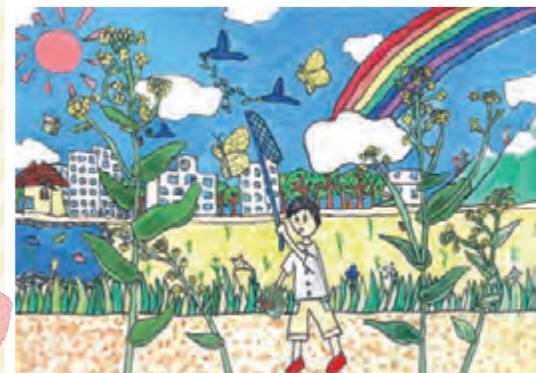
東保見小学校 5年  
筒井莉子さん



### → 自然にあふれる未来のさなげ

未来まで自然が残るまちを想像しながら描きました。生き物、木、山や菜の花などの自然の残るまちにビルや学校があって、人がたくさん住んでいるけれども、住みやすい家も建っていることを表しています。

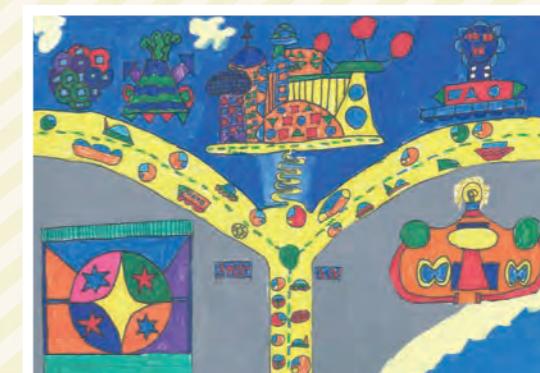
東保見小学校 5年 本間日彩さん



### 夢の未来 →

若者から高齢者まで快適に楽しく過ごせるような、便利で豊かな自然があるまちになってほしいと思って描きました。多くの人が乗れる長い車や、磁力で動きリラックスして乗れる球形の車を描きました。

大畑小学校 5年 荒川颯希さん





### ➡ エコ都市猿投

この絵は、山の地中に都市があり、家、ビル、お店、公園や遊園地もあります。真ん中にある塔の上にのぼると、猿投のまちが見える展望台があります。将来、猿投がこのようにならいいなと思いながら描きました。

青木小学校 5年 塚田博喜さん

### ↑ 新・さなげ駅かい発予定図

新幹線やリニアモーターカーが猿投駅に走るくらい、このまちが発展してほしいと考えて描きました。電車の色は、猿投の名産であるモモの色にしました。駅前には買い物ができるビルやタワーなどがたくさん建ち、便利なまちになってほしいと思います。

井上小学校 5年 山本悌遙さん



### ➡ 自然、緑いっぱい未来の猿投

やさしいまちをイメージしながら、こんなまちが本当にあつたらきれいだらうなと考えて描きました。果物の家を描いたのは、地震が起きてても壁を食べられるからです。また、ブナの木のマンション、桂の木の商店街、竹のデパートを描いたのは、CO<sub>2</sub>が減ると思ったからです。

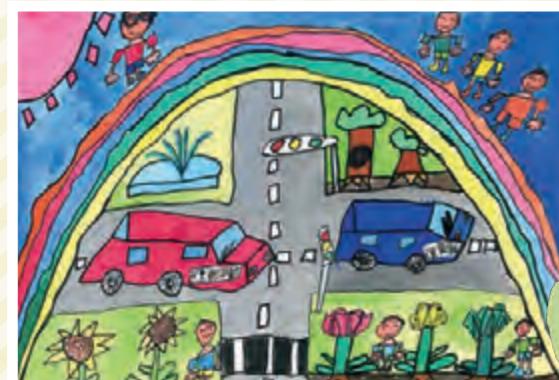
青木小学校 6年  
今川春乃さん



### ↑ あま～い香りがただようさなげ♡

私は猿投のモモが大好きなので、あま～いモモの香りが漂うような猿投になってほしいと思ってこの絵を描きました。ピスケットやガムの道路、リンゴやアイスクリームの車など、私が好きな食べ物でまちをつくり、みんなに笑顔になってほしいと思います。

青木小学校 5年 鈴木璃路さん



### ➡ にじにのれる町

みんなが明るく、人が住みやすいまちをイメージして描きました。車は自動運転なので便利で安全です。虹に乗ってみたいと思って、自分と友人が乗っている絵を描きました。

東保見小学校 5年 浅野大悟さん



### ➡ 自然の笑顔満開だ!!

猿投のモモがもっとたくさん的人に知られて注目されるようになってほしいと思って描きました。私の住んでいるところはささゆりがたくさん咲くので、もっと多くの人に知もらいたいです。

上鷹見小学校 6年 菊田音寧さん



### ↑ いつまでもこのままで

毎日、登下校のときに通る道沿いには桃畠や籠川があります。いつまでも、川や田んぼにトンボや鳥がやってくるような、豊かな自然に囲まれた猿投であつてほしいと思いました。

加納小学校 5年 水野七星さん



### ➡ 未来のさなげ駅付近

猿投地区の顔と言えば猿投駅。猿投で有名なスイカを駅のホームにして描いていたら、青虫が食べたところに穴が開く絵本の場面を思い出し、わくわくしてきました。そこで、スイカから出てくる青虫の形の電車を描きました。

青木小学校 6年 中島正稀さん



### ➡ 平和でゆかいなさなげ

ロープウェイのような楽しい乗り物でみんなが楽しんでいて、新幹線が開通してたくさんの人人が猿投に来てくれるといいなと思って描きました。

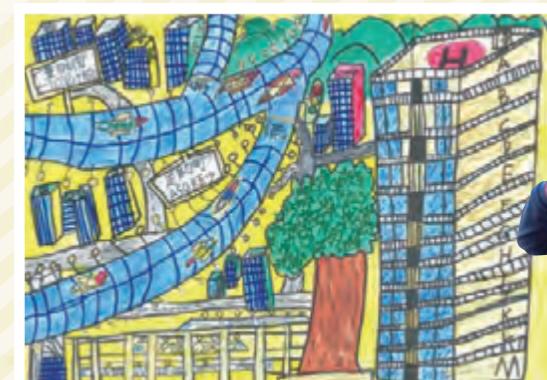
伊保小学校 6年 宇佐美和輝さん



### ➡ 自然たくさん石野

自然とまちが一体化した猿投のまちを想像して描きました。人間が暮らしやすいまちになってほしいと思います。

中金小学校 5年 角池駿斗さん



### ➡ 発てんのさなげ

都会になって大きなビルが建ち、東京や大阪のように大きなまちになってほしいと思って描きました。今よりも交通が発達したらいいなと思います。

東広瀬小学校 5年 小野優弥さん

## こんな猿投にしたい! 市民からの メッセージ

### 「ほのぼのと暮らせる「郷」

高齢化がますます進むので、若い人が積極的に地域の活動に取り組み、地元に根付いてくれるとうれしいです。3世代がほのぼのと暮らせるような「郷」がわたしの理想です。

井郷／天道 杉山満枝さん



### みんなが幸せなまちに

赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが楽しく幸せに暮らせる。そんなまちがわたしの理想です。何かと気忙しく、自分のことで精いっぱいになりがちな日々でも、わたしは思いやりの気持ちだけは忘れないようにしたいです。

猿投／乙部ヶ丘第一 かばさん



### まちの活性化

四郷駅周辺の区画整理によりまちが活性化し、人口も増加します。新旧の住民が共和することで、新しいつながりもできるでしょう。まちは発展しても、棒の手などの伝統芸能は大切にしたいです。

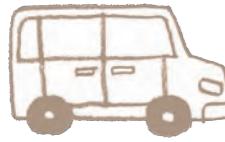
井郷／下古屋 RUIさん



### 国境を超えたつながり

豊田市には外国出身の方が多く暮らしているので、あいさつが交わせるくらいの外国語をみんなで覚え、楽しく交流のできるまちにしたいです。

保見／篠原 加納内さん



### 笑顔の絶えないまち

わたしの暮らすまちは、みんなが仲良く支え合って過ごしています。この温かく相手を思いやる気持ちをこれからも引き継ぎ、笑顔の絶えないまちにしたいです。

保見／保見町 加藤三枝子さん



猿投／乙部ヶ丘第一 かばさん

### 未来につなぐ「メッセージ」

この街で生きていくには、ほんの一握りの幸せがあればいいのです。笑顔と思いやり、人をつなぐ縁によって、誰もが生きる喜びを実感し、ダイヤモンドの原石のように磨かれて輝く若者たちがいる。そんな未来と希望にあふれる街でありたいのです。

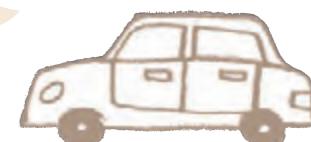
石野／東広瀬下切 河原美枝子さん



### 猿投の未来

地区としての名称（猿投）は国際化に備え、ひらがなが検討される時代となるいるかも知れません。時代は移ろっても伝統文化を大切にし、猿投は住民と経済、自然の三者がバランスのとれた住みよい地域であり続けたいです。

石野／富田町 城金茂樹さん



### 顔の見えるつながり

わたしの住む団地は昭和55年に分譲が始まりました。ここ数年は住民の入れ替わりも増えてきましたが、お互いの顔がわかるような関係を築き、新旧住民の垣根を取り除くように心がけています。故郷の異なる人たちが集まっていますが、ここがわたしたちの「ふるさと」になりつつあります。

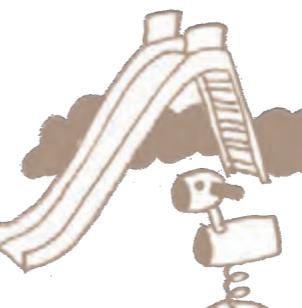
猿投／さなげ台 たけばあばさん



### 大切な場所

買い物などに出かけたとき、同じクラスの子がわたしを見かけて「あっ、正稀ちゃん！」と声をかけてくれます。わたしはとてもうれしくて、にっこりして手を振り返します。わたしも心のふれ合いを大切にして、交流の輪を広げていきたいです。

猿投台／荒井 中島正稀さん



### 安全に遊べるまち

「行ってらっしゃい」という親の声に送られ、子どもたちは今日も笑顔で遊びに行きます。いまもこの先も、子どもたちだけで安全に遊びに行けるようなまちであることが、わたしたちの願いです。

猿投台 マイママ、ツムツム、コハル、リュウママさん



工事が進む平戸大橋（手前）と平戸橋（奥）。



勘八インター西交差点から平戸大橋へ向かう道路の工事現場。

勘八インター西交差点から平戸大橋へ向かう道路の工事現場。主な建設目的は、豊田都心部を通り、豊田市外環状線の一部を構成する幹線道路。東は矢作川を渡り、東海環状自動車道の豊田勘八インターへ接続。一方で西は上原町、高原町を通って逢妻町で国道155号豊田南バイパスとつながり、一方で西は上原町、高原町を通って逢妻町で国道155号豊田南バイパスとつながる。そのまま南下すると伊勢湾岸自動車道の豊田南インターチェンジだ。

今、平戸橋町から花本町にかけて工事が進められている国道153号豊田北バイパスは、豊田市外環状線の一部を構成する幹線道路。東は矢作川を渡り、東海環状自動車道の豊田勘八インターへ接続。一方で西は上原町、高原町を通って逢妻町で国道155号豊田南バイパスとつながる。そのまま南下すると伊勢湾岸自動車道の豊田南インターチェンジだ。

猿投のこれから

## 豊田北バイパス

猿投のこれから

## 大型製材工場



平戸橋の向こうに架かる「平戸大橋」。



橋が次第に架かっていく。



東海豪雨による洪水は甚大な被害を巻き起こした。



建設中の製材工場。

豊田市が御船町地内の市有地を造成後、誘致した大型製材工場が完成し、いよいよ平成30年の夏から操業を始める。市内のみならず、県内の林業界にとって大きな課題となっていた木材の流通体制を整えるための核施設だ。



高性能林業マシンを用いて主伐が行われる。

豊田市の都心が水没の危機にさらされ、人工林の放置・荒廃が危機的状況だと気付いたからだ。合併から10年以上が経ち、人工林は今、間伐すべき時期から収穫期に入った。地元産の木材が使われにくい真の理由の一つである流通体制を整えるために、豊田市は大型製材工場の誘致を決断。ここを拠点に地域材をブランド化し、流通させて社会を変えていこうとしている。

大型製材工場を運営するのは奈良県に本社を置く西垣林業株。地元雇用にも積極的で、すでに県立猿投農林高校の卒業生を雇用している。